

氏名	中村明彦
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3095 号
学位授与の日付	平成18年3月24日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Serum Interleukin-18 Levels Are Associated With Nephropathy and Atherosclerosis in Japanese Patients With Type 2 Diabetes (血清Interleukin-18濃度は2型糖尿病患者の腎症と動脈硬化症に 関係がある)
論文審査委員	教授 松川昭博 教授 小出典男 助教授 松浦栄次

学位論文内容の要旨

Interleukin-18 (IL-18)が、糖尿病性腎症の予測因子となるか検討した。腎機能正常な2型糖尿病患者 82 例と、年齢と性別をマッチした正常対照 55 例に、臨床パラメータ、血清・尿中 IL-18 濃度、IMT や baPWV 測定した。治療変更ない 76 例に 6 ヶ月間の尿中アルブミン排泄率(AER)の変化を検討した。血清および尿中 IL-18 濃度は、正常対照に比し 2 型糖尿病患者で有意に高値を示した。重回帰分析では、血清 IL-18 濃度は AER と hs-CRP、尿中 IL-18 濃度は AER が有意な独立寄与因子であった。血清 IL-18 は、IMT と baPWV に正相関した。血清および尿中 IL-18 濃度は、6 ヶ月後の AER、6 ヶ月間の AER の変化率と正相関を認めた。血清 IL-18 濃度は、2 型糖尿病患者の尿中アルブミン排泄率に密接に関連しており、動脈硬化のみならず腎症の予測因子となる可能性がある。IL-18 は、動脈硬化と腎症に共通した進展因子である可能性がある。

論文審査結果の要旨

中村明彦氏は、本邦での 2 型糖尿病患者 82 例と正常対照 55 例を用いて、IL-18 が糖尿病性腎症の予測因子になるかを、臨床パラメータ、血清・尿中 IL-18 濃度、IMT や baPWV、尿中アルブミン排泄率 (AER) の変化を指標に検討した。その結果、血清および尿中 IL-18 濃度は、正常対照群に比し 2 型糖尿病患者で有意に高値を示すことを示した。また、血清 IL-18 濃度は、IMT や baPWV と正相関を示し、6 ヶ月後の AER や 6 ヶ月間の AER の変化率と正相関を持つことをみいだした。これらから、血中 IL-18 が糖尿病腎症の予測因子となる可能性を提示した。審査時の質問に対しては簡潔・的確に回答しており、今後の研究の展望もはっきりと認識している。

よって、本研究者は博士 (医博) の学位を得る資格があると認める。